

シロウオの産卵調査を実施しました。

○2023年4月20日、萩市の中心部を流れる松本川下流で、ハゼ科魚類の「シロウオ」の産卵調査を実施しました。

○松本川では、毎年3～4月頃にシロウオが産卵のために遡上し、川底の小石に卵を産み付けます。

○川底の小石をシャベルで採取し、小石に産み付けられた卵の数量を調べます。



○この調査は、1969年（昭和44年）から継続して行っているものです。残念ながら、近年、産卵量、漁獲量ともに減少傾向にあります。原因はよくわかりません。

○今年の調査では、産卵量は2.7千粒/m²と推定され、昨年（0.8千粒/m²）と過去10年平均（2.0千粒/m²）を上回りました（下図参照）。

【参考：シロウオについて】

- ・シロウオは全長5cmほどの透明なハゼ科の魚類で、通常は海の沿岸域に生息します。
- ・産卵期（3から4月頃）になると河川に遡上し、下流域の石に卵を産み付けます。
- ・産卵後、メスは死にますが、オスは卵がふ化するまでの2から3週間、卵を保護してから死ぬといわれています。



(石に産み付けられたふ化直前の卵)

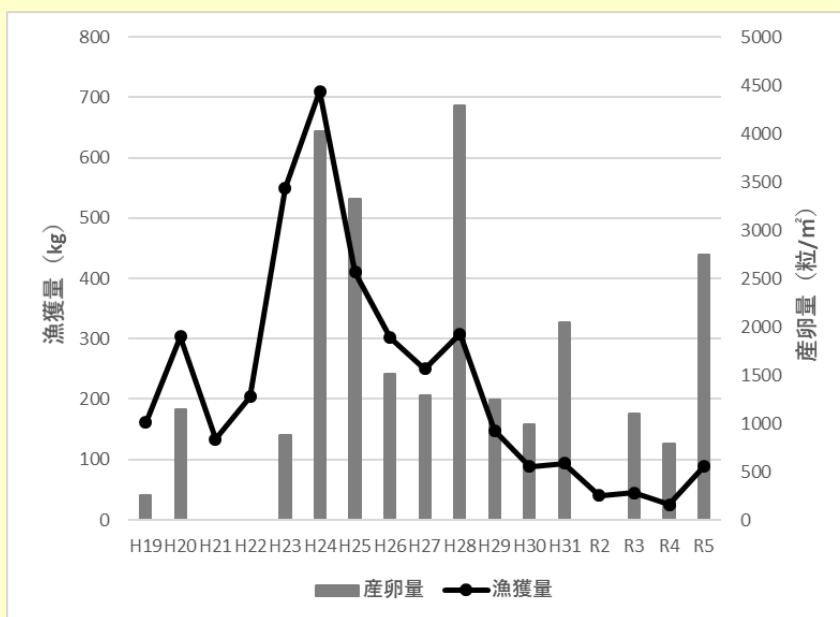


図 (松本川下流域におけるシロウオの産卵量と漁獲量の推移)